

国営吉野ヶ里歴史公園整備プログラム



平成21年4月

国土交通省 九州地方整備局

— 目次 —

1. 全体計画及び開園状況等	1
(1) 全体計画	1
(2) 開園の状況	3
(3) 利用の状況	3
2. 平成24年度までの整備及び管理運営の方針等	4
(1) 今後5年間の整備・管理運営の重点事項	4
(2) 整備方針	5
(3) 管理運営方針	7
(4) 5年間の整備・管理運営によってもたらされる 効果	10

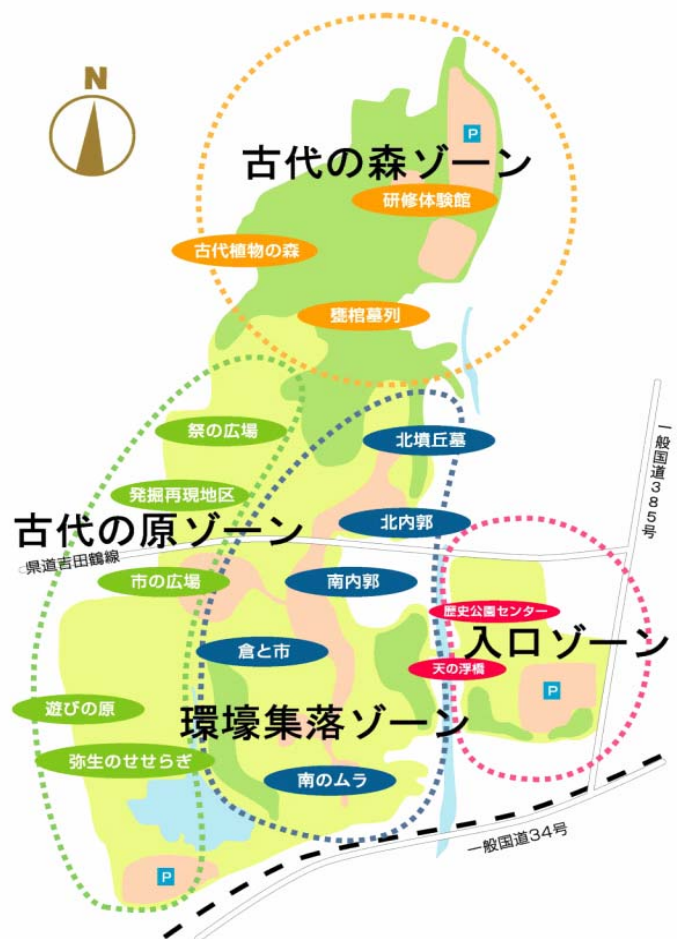
1. 全体計画及び開園状況等

(1) 全体計画

国営吉野ヶ里歴史公園は、我が国固有の優れた文化的資産であり、平成3年5月に国の特別史跡に指定された吉野ヶ里遺跡の保存と活用を図るため、都市公園法第2条第1項第2号口の規定に基づき平成4年10月の閣議決定を受け事業化された、計画面積約54haの国営公園です。さらに、遺跡の環境保全と歴史公園としての機能の充実を図るため、佐賀県立公園約63haと一体となった、総面積約117haの吉野ヶ里歴史公園として整備しています。なお、現在までの開園区域及び計画区域を4つのゾーンに区分し、「入口ゾーン」「環壕集落ゾーン」「古代の原ゾーン」「古代の森ゾーン」としてそれぞれ整備しています。

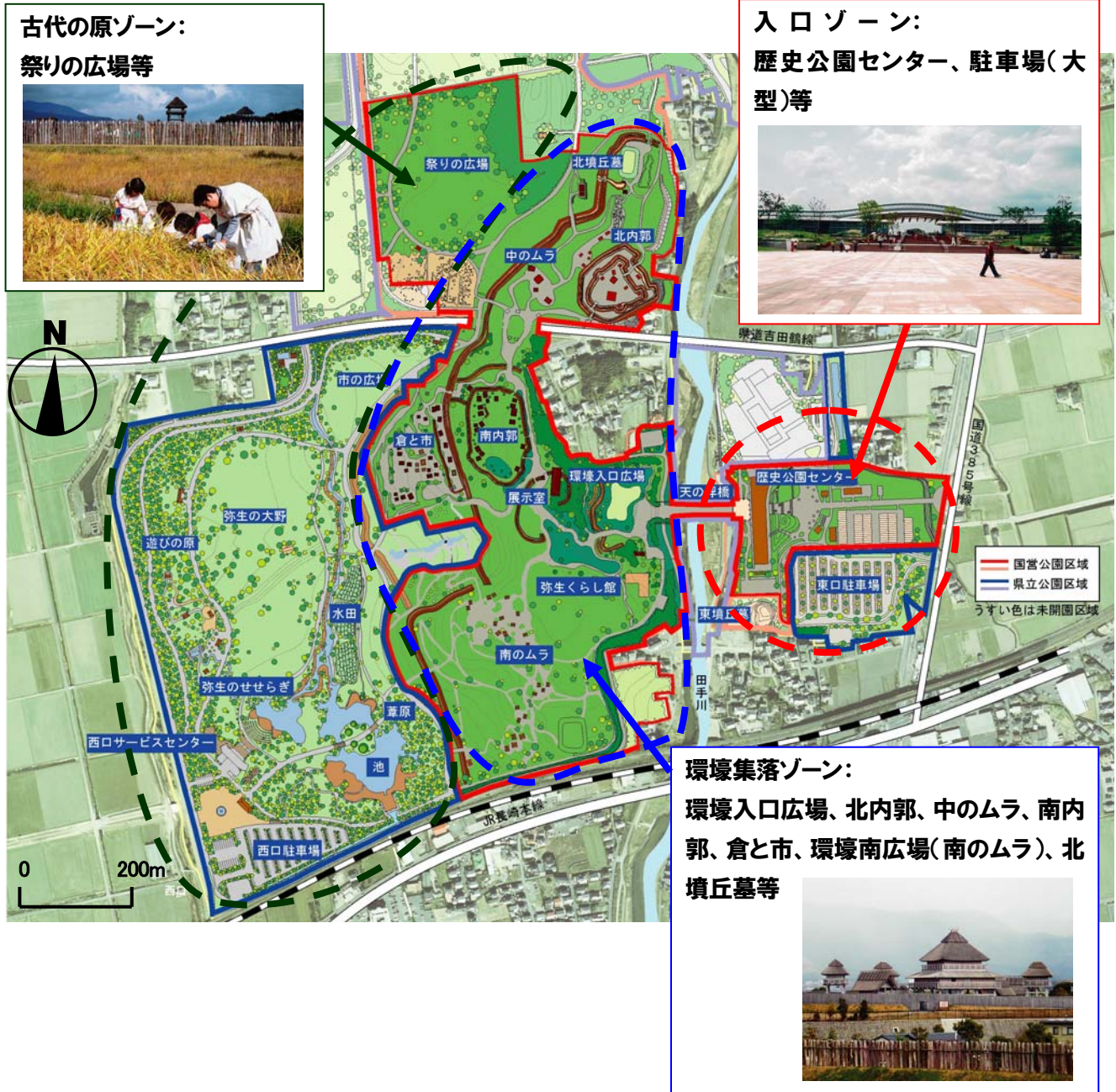


<位置図>



<ゾーニング図>

【供用区域及び主な施設】



- 整備にあたっては、本物へのこだわりと、適切な施設の復元やわかりやすい手触りの展示等を通じて、弥生時代を体感できる場を創出するとともに、佐賀県立公園区域に設置が予定されている博物館との連携等により、日本はもとより世界へ向けた歴史文化の情報発信拠点を目指しています。
- 区域の大半（約 50ha）が特別史跡区域を含む史跡指定地であることから、遺構面が傷つかないように保存盛土等の処置を講じた上で弥生時代の環壕集落を復元し、「弥生人の声が聞こえる」という基本テーマにふさわしい公園整備を進めています。

(2)開園の状況

国営吉野ヶ里歴史公園が位置する地域は、昭和 56 年に工業団地計画が持ち上がり、昭和 61 年から大規模な発掘調査が開始されました。平成 3 年 5 月に吉野ヶ里遺跡が国の特別史跡に指定されたことを契機に、官民一体となった取り組みが強力に押し進められた結果、平成 4 年 10 月の閣議決定を受け事業化され、平成 5 年 3 月に都市公園として都市計画決定、同年 5 月に基本計画の策定、平成 6 年 3 月に事業承認、平成 7 年 11 月より整備が進められています。

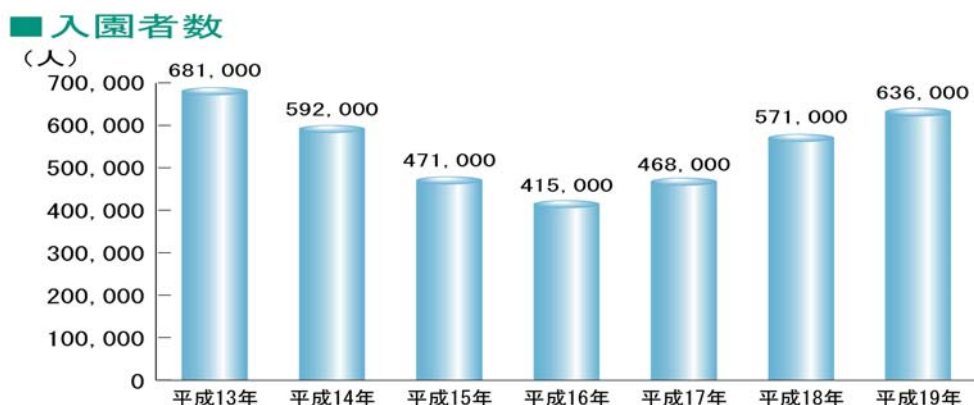
昭和56年	工業団地の検討着手	
昭和61年	文化財の発掘調査開始	
平成3年	吉野ヶ里遺跡が特別史跡に指定	22ha
平成4年	閣議決定	
平成5年	都市計画決定	
平成7年	工事着手	
平成13年	歴史公園センター、北内郭、南内郭等	16ha
平成14年	環壕入口広場の一部	1ha
平成15年	環壕南広場（南のムラ）外周園路	2ha
平成17年	祭りの広場	7ha
平成18年	南内郭広場の一部	1ha
平成19年	環壕南広場（南のムラ）、北墳丘墓	11ha
	供用面積 計	38ha

(3)利用の状況

開園した平成 13 年度の年間入園者数は約 68 万人でしたが、オープン効果の希薄化や北部九州観光の低迷等により入園者数は年々減少していました。

しかし、平成 17 年度に利用促進行動計画を策定し、福岡都市圏への重点的な広報活動、効果的な媒体を活用した広報、イベントの充実などを実施した結果、増加に転じ、平成 18 年度は前年度より 10 万人増の約 57 万人、平成 19 年度も 6 万人増の約 63 万人となっています。

なお、開園から平成 19 年度末までの入園者累計は 383 万人となっています。



2. 平成24年度までの整備及び管理運営の方針等

(1) 今後5年間の整備・管理運営の重点事項

日本最大級の弥生時代の環壕集落跡である吉野ヶ里遺跡の大切さを後世に伝えるために、当公園の基本テーマ「弥生人の声が聞こえる」を実践しながら、地球温暖化対策、高齢者・障害者等の快適な利用への配慮、低迷する地域経済への対策等の社会的要請にも積極的に応えていくために、下記の今後5年間の重点事項を定めました。

【吉野ヶ里歴史公園の役割】

吉野ヶ里の遺跡の保存を通じての本物のこだわりと、適切な復元やわかり易い手触りの展示などの遺跡の活用を通じて、弥生時代を体感できる場を創出します。

【5年間の整備・管理運営重点事項】

- 国の特別史跡や県の史跡に指定されている吉野ヶ里遺跡を適切に保存するとともに、弥生時代の植生に基づき、豊かな森を再現し、広く弥生時代の景観を感じさせるとともに地球温暖化対策にもつながる緑化を図ります。
- 園内の移動や施設利用等においてユニバーサルデザイン^(※)を推進し、全ての利用者が安全で快適に楽しめる公園を目指します。
- 歴史公園にふさわしく、周辺地域の歴史的・文化的資産との連携を図り、広域観光の拠点として、まちづくりの核として地域振興の一翼を担う公園を目指します。
- 復元された環壕集落施設等を活用した演出や体験プログラムの充実を図り、体験等を通じて歴史・環境など、弥生時代を感じる歴史のロマンあふれる魅力ある公園を目指します。

※本整備プログラムでは、ユニバーサルデザインを年齢や障害の有無にかかわらず全ての人が利用しやすい物や施設設計の考え方という意味で使用しており、バリアフリーもこの中に含むものとしました。

(2)整備方針

○弥生時代の豊かな森の再現とユニバーサルデザインの推進

弥生時代の景観を感じさせるとともに地球温暖化対策にもつながる整備や、高齢者や障害者など、すべての人が快適に利用できるためのユニバーサルデザインを推進します。

・弥生時代の豊かな森の再現（古代の森ゾーン）

古代の森ゾーンは、花粉種子分析などの調査結果をもとに、弥生時代の樹林を推定し、当時の森の再現を図り、森と人との関わりや自然界における動植物を含む森の役割などを楽しく学べる場として整備します。森の再現にあたっては、当時の森の姿に近い近隣の山間部にあるダム水没予定地から、樹木と共に野草や土中の生き物を含んだ土壌ごと森を移植する新しい技術を活用しながら進めていきます。再現された森においては、観察や散策、環境学習、市民による森づくり等を行い、その拠点となる「古代植物館（仮称）」についても整備します。

更に、「古代の森」の中に600mもの長さに渡って存在する甕棺墓列（甕の棺桶の墓地）の一部復元に着手します。

【5年間の整備目標】

- ・「古代植物館(仮称)」と「古代の森の一部」を平成 24 年度に開園します。
- ・「甕棺墓列」の復元整備に着手します。



<甕棺墓列>
幅2~3m・長さ600mわたって、2列に埋葬された甕棺墓

・ユニバーサルデザインの推進

高齢者・障害者対策として、復元された高床倉庫や竪穴住居などに、車いす昇降装置やスロープの設置、トイレ内の音声案内装置、また解説板の多言語化などの対策を実施していますが、国の特別史跡、佐賀県の史跡に指定されていることから、遺跡の保存や歴史的景観の保全を図るため、様々な制約が課せられています。「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」を踏まえ、全ての利用者が安全で快適に楽しめるように、また歴史的な景観へ配慮しながら園路、広場、案内表示、解説板等の園内施設のバリアフリー及びユニバーサルデザインを推進していきます。

【5年間の整備目標】

・歴史的景観の保全と利用者の安全・快適な利用を両立させるユニバーサルデザインを推進します。



＜車いす昇降装置＞

車いすの方でも復元建物の内部を見学できるよう、昇降装置を設置した例



＜トイレの音声案内＞

視覚に障害のある方でもトイレを利用しやすいように音声案内装置を設置した例

＜解説板の多言語化＞
海外からの観光客向けに日本語、英語、韓国語、中国語の4カ国語により表記した解説板の例

たか ぼか じゅう きょ
高床住居
High-floored residence 고상 주거 高架地板住宅

神聖な区域の中にあり、高床倉庫とは違ってほぼ正方形に近い形をしていることから、吉野ヶ里の最高司祭者の住まいだったと考えられています。最高司祭者は一般の人々の前にはほとんど姿を現さなかったと考えられており、まさしくプライベートな空間だったと思われれます。

Located in the sacred area and having an almost square shape, unlike the high-floored storehouse, this building is considered to be the residence of the highest-ranking priest of Yoshinogari. It is said that highest-ranking priest rarely appeared in public so that this must have been a very isolated area.

신성한 구역 안에 있으며, 고상 용고와는 달리 거의 정방형에 가까운 형태를 띠고 있는 것으로 볼 때 요시노가리의 최고 사제의 주거지였다고 생각됩니다. 최고 사제는 일반인을 앞에는 거의 모습을 보이지 않았던 것 같으며, 불행히도 알려진 사실은 공간이었다고 생각됩니다.

高床地板住宅は神聖な区域の中、単荘と高物 不同、形状基本上近似于正方形。由此可... 这里可能是吉野里的最高司祭者的住所、祭所... 最高司祭基本上不在普通人前露面。因此 这的推测 一定 绝对 的。

（遺構図）
(Revised Structural Plan)
(原寸図) (1:1)

（復元図）
(Restored drawing)
(概略図) (1:10)

(3)管理運営方針

○「吉野ヶ里らしさ」の充実と地域連携の強化

我が国の歴史についての理解を深めてもらえるよう、吉野ヶ里遺跡の価値や魅力、復元された環壕集落施設や体験プログラム等を活かし、弥生時代を感じることに出来る柔軟な管理運営を目指します。

特に、地域振興の一翼を担うべく、地元自治体や市民団体、地域のボランティア及び周辺の歴史的・文化的資産や観光施設とも連携を図り、地域の活性化に貢献できる公園を目指します。

・吉野ヶ里らしさの演出

復元建物が建ち並ぶ空間を活用し、宿泊体験や農耕体験、自然観察、勾玉づくりなどの体験プログラムや、弥生時代の人々の暮らしぶりを再現するイベントの充実を図ります。

また、より鮮明に弥生時代に生きた人々の暮らしをイメージできるよう、地域の野生草花による修景で当時の風景を創出するなど、吉野ヶ里らしさの演出の充実を図ります。

【5年間の管理目標】

・遺跡を活用した体験プログラムの充実等により、吉野ヶ里らしさを一層演出し、弥生時代の文化を広く後世に伝承します。

【5年間の数値目標】

・公園の年間利用者数

63万人(H19) → 約74万人(H24)

・体験プログラム参加人数

7.2万人(H19) → 約10万人(H24)



<宿泊体験>



<勾玉づくり>

・歴史・文化ネットワークの構築

公園周辺地域には縄文時代から近代に至る各時代の歴史的・文化的資産とそれらを取りまく美しい自然環境が存在していることから、これらの資産と連携する方策の具体化を推進して地域活性化を図り、更に外国人観光客の誘致を目的に海外等との連携、交流を強化して、歴史公園としての魅力の充実・向上に努めていきます。

【5年間の管理目標】

・周辺**の歴史資源との連携強化により各施設の相乗的な魅力向上を図り、国内外からの観光客の誘致を推進します。**

【数値目標】

・年間外国人観光客数 **3,110人(H19) → 約 1万人(H24)**



＜周辺**の歴史的資産の例(肥前国庁跡(国史跡))**＞ <外国人観光客誘致の例(ソウルでの吉野ヶ里展)>

・地域との連携

地元自治体や佐賀県の観光拠点、市民団体等との連携・交流を強化し、地元と一体となった観光誘致活動や地元の製品を使用した弁当等の紹介、地元主催の地域イベントを積極的に公園に誘致して全国からの集客を図るなど、歴史公園を核とする地域の活性化を図り、地域振興の一翼を担う公園を目指します。

【5年間の管理目標】

・地域**経済の活性化に貢献し、地域振興の一翼を担います。**

【数値目標】

・地元主催イベント参加人数
5.8万人(H19)
→ **約 8万人(H24)**



＜地元主催イベントの例(GW イベント)>

・市民参加による開かれた公園づくり

地域の方々に愛される公園となるために、実際に参加、体験しながら楽しむ公園利用を進め、ボランティア等と連携して共に考え、行動し、これまで以上に利用者のニーズを反映した柔軟できめ細かな管理運営を目指します。また、ボランティアの活動拠点等の充実も図っていきます。

【5年間の管理目標】

・地域のボランティアとの連携を一層推進し、地域の方々に愛される公園を目指します。

【数値目標】

・ボランティア人数 148人(H19) → 約300人(H24)



＜ボランティアによる体験プログラムの指導＞



＜ボランティアガイド＞

○コスト縮減

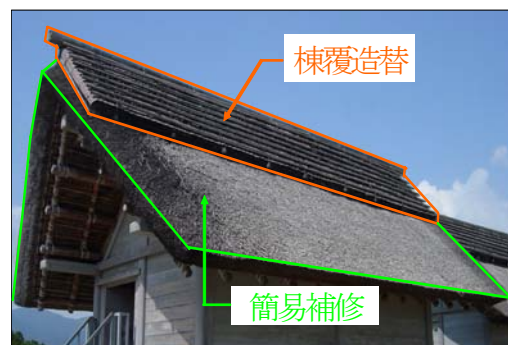
費用対効果を考慮し、園内から排出される刈草や剪定枝などの堆肥化や園路照明の光源を消費電力の少ない発光ダイオード（LED）への取り替えや、太陽光発電などの再生可能エネルギーの採用や復元建物の計画的な屋根補修による延命化などにより、引き続きコスト縮減に努めるとともに環境にも配慮し、効果的・効率的な管理運営を進めます。

【5年間の管理目標】

・一層の維持管理コストの縮減を図り、効率的・効果的な管理運営を進めます。

【数値目標】

・維持管理費のコスト縮減
H19ベースより
6%縮減(H24)



＜屋根の計画的な補修による復元建物の延命化＞

(4)5年間の整備・管理運営によってもたらされる効果

○弥生時代の森と人の関わりや自然環境について学べる場を提供できます

古代の森と古代植物館（仮称）の整備により、森と古代人との関わりや自然界における動植物を含む森の役割などについて、森の中を散策して楽しみながら、またいろいろな体験学習を通して、弥生時代の生活や自然環境について理解を深めてもらえる場が提供できるようになります。

さらに、古代の森の整備によって新たな森が形成されることにより、二酸化炭素の吸収・貯留の効果が見込まれます。

○全ての利用者が安心して楽しめる公園になります

ユニバーサルデザインの推進により、様々な障害のためにこれまで当公園を積極的に利用出来なかった方々などが、障害を気にすることなく、安心して、弥生時代を体感することが出来るようになります。

○地域の活性化に貢献できます

地域との連携を強化することにより、吉野ヶ里歴史公園及び周辺の歴史資源、自然資源等の観光資源の魅力が一層向上し、地域振興、地域活性化効果が見込まれます

○吉野ヶ里遺跡の魅力を楽しみながら知ってもらうことができます

遺跡を活用した様々な体験プログラムの充実等による吉野ヶ里らしさの一層の演出により、吉野ヶ里遺跡の重要性や歴史・環境に対する理解を、楽しみながら深めることができるようになります。

- ◆ なお、本プログラムは、公園整備・管理を巡る社会情勢の変化、事業の進捗状況等を踏まえ、適宜見直しを行っていきます。